



栄光の未来

R6.1.15

第19号

「当たり前」であることの幸せ

冬休みが終わり、1月9日（火）に学校がスタートして1週間が経過しました。新年早々に大きな災害や事故に見舞われた日本でしたが、幸いなことに東石山中では、地震による被害は調理室の食器が数枚割れただけでした。市全体で「14日（日）までの部活動、放課後活動の中止」という措置がとられたことを除けば、生徒の皆さんはこれまでと変わりなく学校生活を行うことができました。そして今日からは、部活動を含む放課後活動も再開され、当たり前前の日常が完全に戻ってきました。

しかし、市内には通常の学校生活を再開できない学校もあります。また、自宅に大きな被害を受けた人たちも大勢います。このようなことを考えたときに、学校や家庭での生活を「当たり前」に過ごすことのできる私たちは、そのありがたさや幸せを意識しながら今の生活を送っていくことが大切なのだと強く感じます。亡くなられた方や被災された方を思うことや、そのような方々に対して自分たちができることを考えることは、「当たり前」の日々を過ごせる私たちの責務です。加えて、「当たり前」に過ごすことのできる日々を今まで以上に充実させ、力強く生き抜くことも、また大切なことであると考えます。

今年度の残された期間が少なくなってきました。3年生の教室にはカウントダウンカレンダーが貼られています。「当たり前」に感謝し、学級や学年、学校の有終の美を迎えられるように、一人一人が力を尽くしていきましょう。

勇気と覚悟をもった「自己決定」の大切さを学ぶ

2日（火）に羽田空港で起こった航空機事故では、海上保安庁の職員5名が尊い命を落としました。しかし、航空機の乗客、乗員379名は、炎の上がった機体から全員無事に脱出することができました。事故発生から全員脱出までの時間はわずか18分。そのため、海外メディアからは「奇跡の18分」として報じられています。それは、客室乗務員（CA）の適切な判断と行動によってなされたものでした。乗員を落ち着かせるための声かけと指示、機内や機外の状況の把握などとともに、避難経路の確保と適切な誘導によって、炎を上げる機体から全員が脱出できたのです。



CAの判断で確保した脱出口もあった！

機長と連絡のつかない状況にあったCAもいた中で、一人一人がその場の状況を踏まえて適切かつ主体的に判断し、行動したことが報じられています。日頃の訓練のたまものとは言え、あのような状況で、機長の指示が仰げない中で、乗客の命を守るために勇気と覚悟をもって、自身で判断、行動したCAに敬意を表します。それとともに、このCAの姿に私たちも学ぶところが多くあると感じます。

毎日の学校生活において、何事に対しても主体的にかかわり取り組むことで、いろいろな課題を解決したり、現状からの成長につなげたりすることができます。そこには、「自分事」として受け止める姿勢や、さらなる向上を目指そうとする意識が必要です。生徒会や学年・学級で、また個人としても、「目指す姿」や「ありたい自分（たち）の姿」に向けた思いを強くもって、困難に負けずに頑張れるといいですね。その頑張りの先に、素晴らしい東石山中学校の姿の実現があるのだと思います。皆さんの力に期待して、東石山中の2024年がスタートしました！